

令和5年度 第1回飯山市図書館協議会 会議録

- 開催日 令和5年6月1日(木)午後3時30分～4時30分
○開催場所 飯山市公民館101会議室
○参集者 委員：松澤香苗、坪井 久、堀崎典子、大口千絵
小林芳裕、西田裕香子、小林実江
市側：松木英文(教育長)、田中良則(文化振興部長兼図書館長)
佐藤恭史(課長補佐兼図書館係長)、川崎 絢(図書館司書)
今清水弥(図書館係)

1 開 会 図書館長

2 辞令交付

教育長から各委員へ辞令交付

3 あいさつ

教育長：ただいま辞令を交付いたしました委員の方々には、2年間の任期中、市立飯山図書館の事業に関わり前向きなご意見を寄せていただき、より意義のある図書館運営ができるようにしたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

本に親しむことは子どもだけでなく大人にとっても自分の見方・考え方を広めたり深めたりできるとともに、自分の感性の面からも大事なことだと思っている。そんな点からも図書館の果たす役割は非常に大きいものがあると思っている。飯山市を中心とする地域の方々がより図書館を活用してほしいと願っている。読む体験をたくさんして、読むって楽しいな、読むって自分のためになるな、そういった意識を持つことが子どもにとっても大人にとっても大事な営みになるので、読む習慣が広がっていくことになっていく。

本年度、飯山市出身で長く児童図書の出版業務に携われ、現在も日本ペンクラブの重責を担っておられる方から絵本等を1万冊以上寄贈していただく予定になっている。この絵本等をどのように活用していくか、子どもたちを育てていくにはどんなふうにしていったらいいのか、また、本に親しむまちにしていくことが大事なことだと思うので、そういうことから検討していきたいと考えている。図書館協議会の委員の皆さまにも、こんなふうにしていったらいいのではないか、こういうところに置いたらいいのではないかといったアイデアをいただければ非常にありがたいと思っている。

今日は本年度の事業計画等の検討もしていただくが、今話した点も時間があればご意見等をいただければありがたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

4 自己紹介

(三井委員は公務で欠席)

5 役員の選出等

(1) 会長の選出

互選により小林芳裕委員

会 長：委員各位の経験に基づく意見等を出してもらいながら職務を進めていきたい。

(2) 職務代理の指名（会長より指名）

西田裕香子委員

6 協議事項

(1) 令和4年度事業報告について

事務局：(資料のとおり説明)

～承認～

(2) 令和5年度運営方針・事業計画について

事務局：(資料のとおり説明)

会 長：図書館を活用する中で、司書の皆さんに丁寧に対応してもらったり、質問すると時間をかけても応えていただいているので助かっている。そんなこれまでどおりの図書館であってほしいと思っている。

委 員：保育園や小学校に本を貸し出しているということだが、学童保育は、例えば「きらら」はどうなっているのか。

事務局：「きらら」については、保育園貸し出しのときに一緒に低学年より下の子向けの図書の貸し出しをしている。

委 員：小さい子ども向けの本はあるが、学童保育の子どもは主に小学校で読書するという感じか。

事務局：小学校は図書の時間があるので本の借り換えがあったりしていて、「きらら」はそれより下の子たち向けの貸し出しをしている。

～承認～

(3) その他

・寄贈受け入れ（予定）絵本等の活用について

事務局：個人の方から絵本等の寄贈を受ける予定。絵本プラス児童図書等、各種いろいろな本がある。数千冊いただけるということで、今年はその整理をしていきたい。

ただいた本をどのように活用していくか検討を進めていかなければいけないと思っていて、保育園貸し出し等の充実という形でもいいと思うし、図書館の中で活用していく考え方もあるし、いろいろな場所に出していくこともできるのかなと思っているが、まだ検討中というところ。皆さまのご意見をいただければと思っている。

教育長：何冊ぐらい来ているのか。

事務局：ダンボールで40箱くらい。1,800冊ほどの分類作業を行っている。

会 長：今や図書館の子どもたち用のところがいっぱい、あと数千冊となると、どこで、どういうふうに見られるのかなと思う。

教育長：学校や保育園にコーナーをつくって、ときどき入れ替えることも考えられる。

事務局：市立飯山図書館の蔵書は13万冊あるのでいっぱいの状況で、図書館に数千冊置くのは難しい。

会 長：その数千冊は今の図書館にあるものとは違うものなのか。

事務局：同じものも存在していると推測される。そこを整理していかなければいけない。

会 長：図書館にない本も多いということか。

教育長：ジャンルは幅広い。

会 長：今の図書館にない本もたくさんあるとなればうまく活用できればいいがと思うが、具体的にどう活用したらいいのかイメージが湧かない。

教育長：拠点となるところが市内に数か所あって、返却はそのうちのどこでもいいとできればいいが。

事務局：ICTを活用すればできると思うが、費用がどのくらいかかるかの課題はある。しかし、そういうようにしていかないと回っていかないと思う。

委 員：リストアップやジャンル分けが大変と思うが、それができたら小さい子どもたちに見てもらえれば保護者にお知らせすることが大事だと思う。若い保護者はSNSから発信すればいいと思う。ただ、それを借りようとしたり、手に取りたいとなったときに、子どもの具合が悪いと外に出られなかったり、出かけるのが面倒だったりすることもあり、そこをどうするかということもあるが、保護者が興味を持ったり、情報がすぐ得られるということは寄贈本を見ていただくには有効になるかなと思う。

・第3次飯山市子ども読書活動推進計画の策定について

事務局：国が子ども読書活動の推進に関する法律をつくり、それに基づき各自治体は子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならなくなっている。飯山市では平成26年から子ども読書活動推進計画を策定して各種取り組みをしてきた。それに基づき事業計画等ができ上がっている。第2次計画が今年度終了する。今年度は第2次計画を見直しながら来年度以降の計画を立てる年となっている。この計画を立てるにあたり、図書館協議会の委員の皆さまに策定委員を兼ねて計画の

策定についてのご意見を伺えればと考えている。

改めて飯山市子ども読書推進計画策定委員の委嘱をさせていただきながら、会議を年 2 回ほど開催し、内容についてご意見をいただきながら来年度からの実施に向けて計画を策定いただきたいと考えている。

会 長：この図書館協議会は年 2 回開催だが、別に策定委員会として 2 回あるということか。

事務局：はい。

会 長：策定委員会はいつごろの開催となる見通しか。

事務局：夏以降になろうかと思っている。メンバーについては、この協議会を中心に学校図書館司書にも加わってもらいたいと思っている。

6 閉 会 図書館長

以上